

海部地区環境事務組合地球温暖化対策実行計画の実施状況について

1 令和4年度及び令和3年度の温室効果ガスの排出量

令和4年度及び令和3年度に海部地区環境事務組合から排出された温室効果ガスの排出量は表1のとおりである。

令和4年度に海部地区環境事務組合から排出された温室効果ガス排出量のうち、エネルギー起源(ごみ処理及びし尿処理以外の活動により発生)は1,623t-CO₂、非エネルギー起源(ごみ処理及びし尿処理により発生)は21,295t-CO₂となり、削減目標の基準年度である平成25年度と比較し、エネルギー起源は49.9%、非エネルギー起源は16.6%の削減となり、令和4年度の削減目標を達成している。

また、令和4年度の温室効果ガス排出量の合計は22,918t-CO₂となり、平成25年度の排出量28,767 t-CO₂と比較すると5,849t-CO₂、20.3%の削減となった。

参考として令和3年度の温室効果ガス排出量について報告する。令和3年度の温室効果ガス排出量のうち、エネルギー起源は1,498t-CO₂、非エネルギー起源は23,012t-CO₂となった。平成25年度の排出量と比較するとエネルギー起源は53.8%、非エネルギー起源は9.9%の削減となった。

また、温室効果ガス排出量の合計は24,510t-CO₂となり、平成25年度の排出量と比較して4,257t-CO₂、14.8%の削減となった。

引き続き、最終目標である2030年度の目標達成に向けて、海部地区環境事務組合地球温暖化対策実行計画に基づき、電気使用量や燃料使用量の削減だけではなく、省資源や職員・見学者の意識の向上、ごみの削減や分別に関する住民への啓発等の取り組みを進めていく。

表1 温室効果ガス排出量の実績及び基準年度との比較

	H25 (2013)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)		R12 (2030)
		実績	実績	実績	目標	最終目標
エネルギー 起源(t-CO ₂)	3,240	1,971	1,498	1,623	1,943	1,587
削減率(%)	0	39	53.8	49.9	40	51
非エネルギー 起源(t-CO ₂)	25,528	23,208	23,012	21,295	23,026	21,699
削減率(%)	0	9.1	9.9	16.6	9.8	15

※参考

総排出目標

	H25 (2013)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)		R12 (2030)
		実績	実績	実績	目標	目標
組合合計 (t-CO ₂)	28,767	25,179	24,510	22,918	24,969	23,286
削減率(%)	0	12.5	15.0	20.3	13.2	19.1

2 温室効果ガス排出量の増減状況

令和4年度の温室効果ガス排出量はエネルギー起源、非エネルギー起源共に目標値を達成しているが、エネルギー起源温室効果ガス排出量は令和3年度から増加している。

表2の各センターのエネルギー起源温室効果ガスの内訳によると、新開センターと上野センターは電力由来の温室効果ガスが大半を占めている。八穂クリーンセンターは電力以外の温室効果ガスが占める割合の方が多いが、排出量の増加は、電力由来の温室効果ガスが大きい。以上の点から、令和4年度のエネルギー起源温室効果ガス排出量の増加は、電力由来の温室効果ガス増加の影響が大きい。

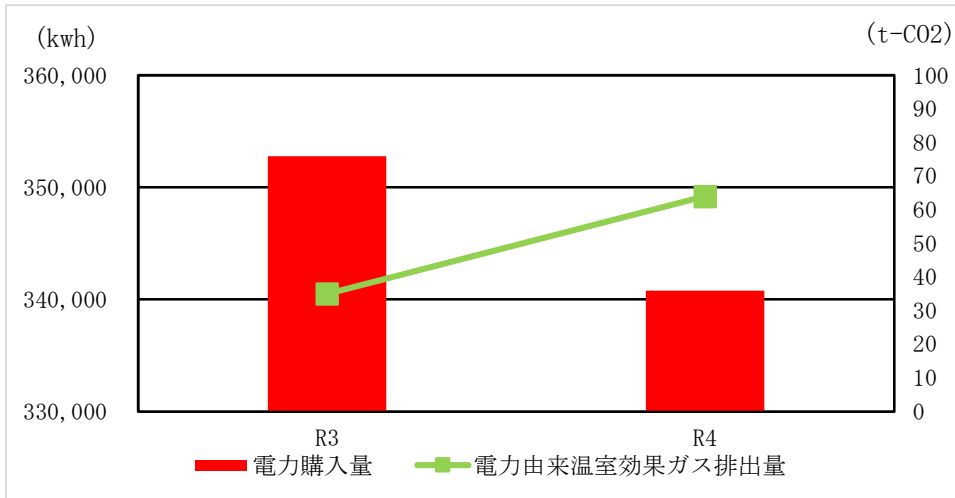
ただし、グラフ1～グラフ3を見ると電力購入量そのものは減少しているため、地球温暖化対策実行計画の効果は出ていると考えられる。

温室効果ガス排出量増加は、新開センターおよび上野センターが契約している電気事業者の温室効果ガス排出係数が0.000406から0.000449に、八穂クリーンセンターが契約している業者は0.000082から0.000175に増加しており、これが原因と考えられる。

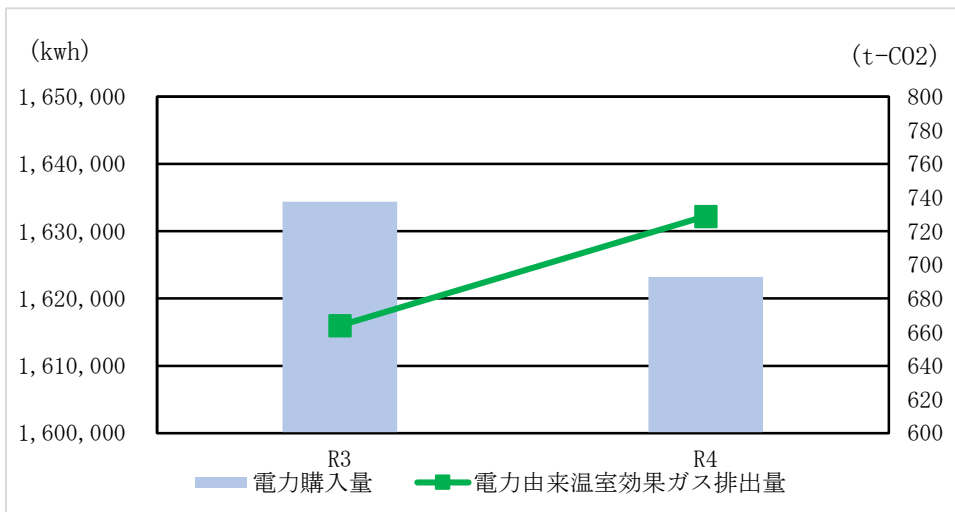
表2 エネルギー起源温室効果ガスの内訳 (t-CO₂)

		R3	R4
八穂クリーンセンター	電力由来	35	64
	電力以外	268	276
新開センター	電力由来	664	729
	電力以外	2	2
上野センター	電力由来	526	549
	電力以外	3	3

グラフ 1 電力購入量と電力由来温室効果ガス(八穂クリーンセンター)



グラフ 2 電力購入量と電力由来温室効果ガス(新開センター)



グラフ 3 電力購入量と電力由来温室効果ガス(上野センター)

